



安善寺本堂での式師 乙川映元老師のもとで執り行われた仏式結婚式

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・小林善秋・高橋潔・加瀬由紀子
室賀清輝・近藤マリ子・高藤利春・近藤善信
後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

「生命の教育」 いのち

翠巖龍弘

暑中お見舞申し上げます。

四月四日の副住職の結婚式には大勢の檀信徒の皆さまに御出席いただき誠に有り難うご座居ました。お陰様で若い二人の力も加わり、以前にもまして活気みなぎる安善寺になりました。

私が願っておりまして、皆様方に気楽に親しんでいただるような寺院に一步近づいた気がします。

先日、カツ丼を食べていた時、ふと五月に行われましてした屠畜慰霊祭を思い出しました。今年で八十八回目です。昨年は十一万三千頭くらいが屠殺されたそうです。新ためて生命について考えさせられました。

私は時折小中学生に映像などではなく「本物のライオン、象、キリンなどを見たことがある？」と聞きますと、ほとんどの子供は「ある」と答えます。本来日本にいない動物ですが、動物園の

おかげでしょう。しかし「牛や豚を見たことは？」と聞くと、ほとんどの子供が日本に沢山いる動物ですが、写真や映像などではしか見たことがないと答えます。

前に読んだ本の中に、ある人が小学生に「きみたちのいのちは誰のものだと思おう？」との質問に、異口同音に「自分のいのちは自分のもの」と答えます。「じゃあ、魚のいのちは誰のもの？」と問うと「魚のいのちは魚のものです」と。それじゃあ、なぜ魚を食べるのか？」の問いに彼らは詰まり、中に一人の子が「お金を払っているから食べていいのです」と、「ああそう、でもね、あなたは魚さんにお金を払っているんじゃないよ。魚屋さんや漁師さんがお金を受け取るのだよ。おかしいと思わない」と問うと、小学生は答えずに窮したそうです。

自分の生命は自分のものならば、豚の生命も豚のもので、牛の、魚の、鶏の生命もそれぞれのものです。米、麦、野菜なども同じです。人間と同じ哺乳動物である牛や豚を食しているのに、肉屋さんではスライスして売ったり、小さな肉塊として売っているため、生きていた姿が浮かびにくく、牛や豚の「いのち」を頂いているということが、大人も子供も気が付きにくい時代と思われまます。

牛豚に限らず私どもの食する物総ての生命はそれらのものです。それらのいのちの犠牲の上で人間は生きていくことが出来るということを深く感じ、それぞれの「いのち」を頂戴いたしますと思いを込めて、食事の時合掌し「頂きます」と言うことが、家庭での大事な生命の教育ではないでしょうか。

人 天地の間に生くるは、白駒の御を過ぐるが若く、忽然たるのみ。 [莊子]

平成の慶事、お二人のご結婚を 心よりお祝いいいたします

太刀川善之助

曹洞宗総本山の総持寺様で当初の予定より長い修行を終えて安善寺様にお帰りになった副住職の近藤真弘様が、縁を頂いて兵庫県加古川市の同じ曹洞宗の常観寺様のお嬢さん、玉置久美子様と結婚されました。心よりどころである菩提寺の安善寺様の将来を担

つて、私たちの先祖の霊を安んじ、ご教導くださる將來への道づけが出来たことなどはとてもありがたいことだと思えます。安善寺様にとつても、私も檀家にとつても、まさに平成の慶事であり、心からお祝い申し上げます。四月四日は晴れて暑から



ず寒からず、結婚式日和でした。すつかり準備が整った境内には、総代・世話人・KAKA笑の会の方々が揃って花嫁さんの到着を心待ちしてお出迎え。タクシーから降り立ち、母君玉置せつ子様の先導で白無垢綿帽子姿の花嫁の久美子さんはなんと清楚で凛々しかったことか。安善寺代々の墓所に参内して手を合わせ、今日から近藤家の一員となるご挨拶をされる姿には胸が熱くなつて涙ぐむ思いでした。

午後一時からの挙式は仏式で行われ、近藤家・玉置家のご親戚の方々が見守る中、新郎・新婦の入堂着席に次いで式師が入堂されました。式師は新潟市の名刹宗現寺住職の乙川暎元様でしたから、堂々として穏やかで、厳かな雰囲気できり行われました。私には仏式の結婚式が珍

しかつたし、特に新郎の真弘様・新婦の久美子様揃って合掌された姿勢が実に整っていて、さすが寺院に育つたお二人だなぁーと関心しました。(元日の神社やお盆の墓参りなどで見受けられる若者の合掌と違って...)結婚披露宴はホテルニューオータニ長岡で盛大に行われまして。午後三時から

の受付でしたが、市内・県内寺院のご住職方、友人、安善寺檀徒の方々がお越しで、十人の受付が目まぐるしく対応せねばならぬ程多くのお客様。三百数十人の結婚披露宴はさすがのニューオータニ長岡でも初めてだったのではなからうか? これほど多くのお客様の披露宴となるとさすがに壮観で華やいだ雰囲気でした。多くのご来賓の中で印象に残ったのは、今、新潟県の何処でも賑が見られる大河



ドラマ「天・地・人」の直江兼続が与六と呼ばれていた幼少期を過ごしたお寺で、ドラマ放映が始まる頃にお寺の中を案内された雲洞庵の新井勝龍ご住職のお姿があったことです。披露宴のアトラクションでは、詩吟神風流の松川神饒氏が漢詩の詩吟に合わせ書かれる書道吟は大変珍しく、四海波...と吟じながらの素晴らしい筆の運びに感嘆しました。和やかな会話が弾む間、新郎の近藤真弘様と新婦久美子様を取り巻く友人達の

祝意あふれる賑わいや、柔和で暖かく明るい笑顔で話され、葬儀や法要などの時とは違うご住職様たちの交流の姿を拝見できて、ほのぼのとした気分になりました。皇室がお泊まりの時にはいつも使われるニューオータニ長岡さんの大変豪華な料理をいただいて、久方振りのお酒に陶々とした気分浸った宵でした。安善寺様の慶事を心から祝意を述べさせて頂くとともに、檀家の一人として素敵な結婚式、披露宴に出席できたことに感謝しております。

山門吉慶

早朝より鶯が鳴き、今日のこの日を待っていたかの様に本堂前の白梅、紅梅が満開になり、空気さえもこの度の慶事を祝っているかの様でした。参列者が見守る中、白無垢姿の花嫁がお母様に付き添われて到着。仏前結婚式が執り行われました。



大禹は聖者にして、乃ち寸陰を惜しめり。衆人に至りては、当に分陰を惜しむべし。『普書』



盛年 重ねて来たらず 一日 再び^{あした}晨なり難し 時に及んで^{あられい}当に勉励すべし 歳月は人を待たず 『陶淵明集』

サバト再びオープン！

小さな絵本館サバト代表 西川 暁子

今年の五月十六日、地元保育園児達により色とりどりの風船が天高く飛ばされました。倒壊した建物の瓦礫が残る駐車場には、お祝いの人達が沢山訪れ、新しい建物では修理を終えたオルゴールが、生き残った蔵では明治時代のオルガンの音色が響いていました。

建物は無くともライブは続けられる！ とブルーシート、コンテナなどで絵本を読み続けてきました。被災した年の秋から冬には『絵本届け隊』として、保育園や



小学校など計40箇所余に絵本を運び、傷心を共に癒し、涙を流したり、去年の秋には被災の中心部でのイベントにオルガンと絵本のコラボで参加し、亡くなられた方への鎮魂のライブをさせて頂きました。

こうしてなんとか絵本を読む、絵本を聞くという場を絶やさないように頑張ってきました。サバトに、再び拠点が与えられたのです！ しかも元の場所に。館を再建して下さった宮川家には勿論のこと、サバトを存続

奥の正法寺・陸中海岸の旅

五月二十一日、本堂でお参りの後、一行三十名は「奥の正法寺・陸中海岸の旅」に出発。車窓からは田植えの終わった越後平野が広がり、バスが東北に向かうにつれ、長岡よりも少し遅い新緑が目眩しく写る光景は何か得をしたような錯覚を覚えました。

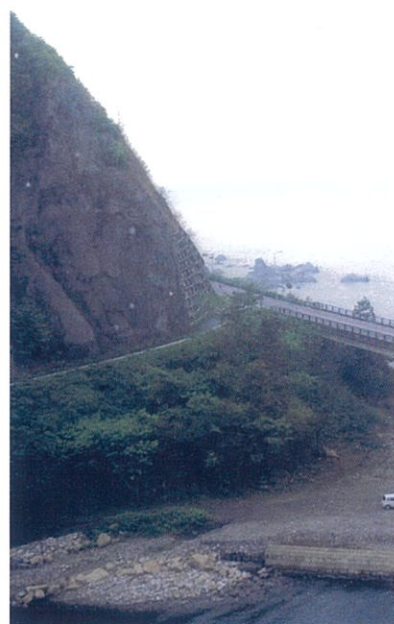
初めて訪れた正法寺は伊達家により建立されたという日本一の茅葺屋根を有する曹洞宗のお寺で、かつて「東北の本山」と言われていた時代もあり、その風格は素晴らしいものがありました。

翌日は久慈駅から電車に乗り、リアス式海岸の絶景を楽しみにしていましたが、あいにくの空模様で少々残念でしたが、お国訛りが飛び交うローカル線の旅もなかなか良いものでした。

瓦礫を集めてくれた中学生、本棚を組み立てた高校生、土留めや、小道を作ってくれた男性陣、大学生達の今後の協力体制も有難いし、とても言い尽くせません。新しく留学生も加わり、新サバトは、火、木、土曜と週三日開きます。

最後になりましたが、被災時に間髪を入れず、檀家や関係者の皆様方からの厚いご支援を頂きましたからこそ、再オープン実現にまでこぎつけましたこと、改めて心より深く感謝申し上げます。

最後に間髪を入れず、檀家や関係者の皆様方からの厚いご支援を頂きましたこと、改めて心より深く感謝申し上げます。



お別れ

(平成二十一年三月～六月末)

田中 修子様 三月十二日寂
東京都東久留米市

片桐 キミ様 四月八日寂
長岡市栖吉町

佐藤 宏子様 五月二十六日寂
長岡市蓮濁

高橋 道子様 五月三十一日寂
長岡市来迎寺

鈴木 一道様 六月五日寂
長岡市乙吉町

鈴木 キシ様 六月十日寂
長岡市横山

ご冥福をお祈りいたします。



その後、日本三大鍾乳洞の一つ「龍泉洞」、遠野のふるさと文化村にも立ち寄り、夕食時は二日間とも参加者の方々が本当に和気藹々とした雰囲気の中、次々とカラオケが飛び出すなど、楽しいひと時でした。お陰様で良い思い出を作ることが出来ました。

旬歌 愁灯

[二十二話]

ララのテーマ

加瀬由紀子

「新潟県女性海外派遣修了者の会(略称I・W・N・N)」という組織がある。

新潟県が実施した事業の海外派遣は、平成五年のタイ・韓国研修旅行が第一回で、第四回からはスウェーデン・デンマークといった北欧方面が中心になった。平成十五年まで続いたのだが、県の助成金予算もなくなり、中止のやむなきに至っている。県内の女性リーダーたちと呼びかけて応募者を募り、面接・選抜して十人から十五人の派遣団を結成、十日間から十五日間の研修を行った。

参加した女性たちは延べ百人近くになるが、その修了者の一部が集まってネットワークを組み、更なるプロジェクトアクションをめざして創られた組織がI・W・N・Nである。結成後十年を経過、私は設立呼びかけ人として関わったり、代表

も一期務めた。このたび会を解散、という案件が提案されたのを、私が事務局長となって再編、活性化するというところで承認された。

この会からは、例えば私の年度では森ゆう子参議院議員や島田伸子三条市議など、北欧の女性社会に学んだ女性たちが主婦から続々政界へと、デビューしていったのである。

この研修は半額自己負担、半額は県からの補助金で、前と午後二箇所の施設訪問、夜は現地の団体と交流会、深夜のミーティングというハードスケジュールだった。どこの議員さんたちの団体とストックホルムで出会ったのだが、一日一施設訪問で、その日程のなんと優雅であったことか！ 移動日や準備日まであった！ 彼らの海外旅行には、高額の経費が計上されるのだが、その成果

は本当に疑問である。昨今、このような議員の海外研修が問題になっており、中止する自治体も増えてきている。

十一月初旬のストックホルムで初雪に遭遇、この頃の北欧は既に冬の装いで旅行者は少なく、スカンディナビア航空をはじめ各航空会社も格安料金になる。

吹雪が顔に当たり、新潟の冬空の様に薄暗い。夏の白夜に對して太陽の出ない冬の昼間は、極北の近さを痛感する寒さだ。

も少々こわい。バルト海とメラレン湖に浮かぶ十四の島々を結んだストックホルムは北欧のベネチアとも呼ばれており、何より環境先進国としての意気込みがすばらしい。飛行場から臨んだ夕焼けは空気の塵が少ない尾瀬の夕焼けとそっくりだった。

先般六月の週末、新潟市で開催された「2009女と男フェスティバル」のワークショップにI・W・N・Nは出展した。講演会でデンマークの教育や女性の最新社会事情を、数回かの地を訪問している知人から語ってもらった。十人足らずの参加者であったが、パワーポイントで映される最近の北欧の紹介に、満足を感じただけだった。

忘れられないのは、林の中の雪道を抜けた所に忽然と現れたスモーギーボードの高級レストラン「ウリクスダール」だ。映画「ドクトル・ジバゴ」のワンシーン、たどりに着いた雪原の中の別荘を彷彿させるそのたたずまいは、「ララのテーマ」なぞ口ずさみながらいつか再訪したいものだ。

さて、私が参加した第四回は、晩秋のスウェーデン・デンマークへの旅であった。

クリスマス準備で街は少しは賑やかになるそうだが、ストックホルムに至っては、

クリスマス準備で街は少しは賑やかになるそうだが、ストックホルムに至っては、

半年暮らせば誰でも市民権を得ることが出来る国。手厚い社会保障で守られている国民。ストックホルム市庁舎に倣って、長岡市も厚生会館の跡地に出来る市庁舎にコンサートやイベントの出来る空間を設けるといふ。ストックホルムに負けない長岡市庁舎、住みよい街にしたいものである。

